

すぽっとライト

マイクを持って街へ
NO. 19

車いすテニスプレイヤー

岡部

Yuko Okabe

裕子



2008年9月6日から17日まで開催されたパラリンピック北京大会。

前号そして今号でパラリンピック北京大会で活躍した四国出身アスリートをご紹介します。

今回は車いすテニスの岡部裕子選手。パラリンピック北京大会に出場するために積極的に世界を転戦し、出場条件である世界ランキング24位以内を見事達成。大会本番では強豪ひしめく中、女子ダブルスベスト8に輝き、世界のトップと互角に渡り合いました。

消費者行政インタビュー特別版（第2弾）としてお話を伺いました。

テニス歴はどのくらいですか？

20歳を越えてから始めたので12年目くらいです。

もともとスポーツには興味があったのですか？

スポーツは好きで小さいときからやりたかったのですが、私が小中学生の頃は障害者がアスリートとしてスポーツをする時代ではありませんでした。何かやりたいなとは思っていましたが、活動できる場所ありませんでしたので、特に何もできずにいました。



チェコ大会2008
左から長久選手、岡部さん、堂森選手
(カナダ) (日本)

会社のテニスに対する理解や環境について

試合に出始めた当初は、仕事をしながらアスリートとして活動することについて相談する相手がいなくて、すごく苦労しました。会社では前例がなかったですし、徳島県下にも障害者のスポーツ選手がほとんどいませんでしたので、どうしたらいいかと…。当分は勤めている会社にテニスをしていることを隠していましたが、徐々に大会数も増えていき、去年は通算で4ヶ月間くらい海外に行っていました。そうやってきますと、やはり会社の方のご協力がなければやっていけなくなってきました。

私が所属しているグループは年度の初めに1年間の作業計画を立てますのでその時に遠征等と仕事の計画を照らし合わせて、自分がいつ頃ならどういうボリュームの仕事ができるかを調整させてもらっています。

パラリンピックが決まるまでは有給休暇で対応していましたが、3、4ヶ月も遠征するとなると有給休暇だけでは間に合わなくなり、土日に働いて平日に休むという変則的な勤務になっていました。忙しい時期には遠征も仕事もない完全なオフの日が、1日もないという月もあって、体力的にも精神的にも辛い日も多かったです。

でも、パラリンピック出場が決まってからは、50日間の特別休暇をいただきましたので、思う存分テニスに打込むことができました。

トップ選手をめざしていて、これだけフルタイムに仕事をしている人はあまりいないと思います。アジア圏では何名か知っている選手が居ますが、海外ではまずそういうことはありえません。

国内ですと、工作中的事故で障害を持たれた方は労災がおりますので、それで生活費や遠征費をまかなっている方もいらっしゃるようです。

普段の練習について

私の場合、職場での勤務体制は11時から16時までがコアタイムのフレックス制となっています。11時までと16時以降は多少抜けても欠勤などの扱いとなりませんので、うまく利用させてもらっています。仕事では休みをいただくだけでも迷惑をかけていますので、夜は残業をすることもあって思うように練習時間が確保できません。



Daegu Open 2008

左から岡部さん、Hong選手のコーチ、Hong選手
(韓国)

そのため、練習はできるだけ朝のうちにやるようにしています。

それから、遠征に行くための手続きなどもすべて自分でやらなければならないため、事務的なことをする時間が毎日1、2時間必要となります。帰宅してから、その時間も確保しなくてはなりませんので、本当に時間が足りません。スポンサーもなく、お給料で遠征費用をまかなっている以上、仕事の時間を短くすることもできませんから…。

普段の練習は健常者といっしょにやっていると聞きましたが・・・

本当に健常者の方と一緒にプレーができるのか、初めのうちは口で説明してもなかなかわかってもらえず、気をつかわれる方も多いです。そんなときは「とにかく見てください」と言います。「これだけ打ちますし、打てます。少々離れたところに打たれても取りに行きます。」と、実際のプレーを見せて理解してもらっています。

テニスそのものを健常者の方と同じ空間で、同じ時間を楽しめるというのはとても魅力的だと思います。車いすテニス以外のスポーツで障害のあるなしに関係なくいっしょに汗が流せるスポーツは少ないと思いますので、そこは車いすテニスの魅力の一つだと思います。



ピースカップ2008
左から岡部さん、伊藤選手、平沢選手、杉山選手、堂森選手

レッスンでは指導してくれる方はいますか？

伸び悩んでいた時期に、指導者の力をお借りしたいと思って、いくつかの民間のテニスクラブに電話したことがあります。設備が整っていないとか、車いすテニスを見たことがないなどの理由で殆ど断られました。今、お世話になっているテニスクラブは車いす用の駐車場やトイレも当初からついていましたし、以前に徳島でダブルスの車いすテニスの大会の開催にご協力いただいたこともあって、すごく理解のあるクラブです。ご指導いただいている今のコーチは車いすテニスにとっても興味を持っていただいている、「どうやって教えていこうか」ということを熱心に研究してくださっています。今の車いすテニス界の状況を考えますと、車いすテニスに興味があるかどうかということは、指導者としてとても大事な要素じゃないかと思えます。

と言いますのも、指導者不足はあっちこっちで抱えている問題で、さらに技術を高めたいと思う選手は多く、もっとレベルの高い指導を熱望していますが、現状は指導者のレベルや数がついてきていないと思えます。

取材やメディアについて

パラリンピックが終わって、いろいろと取材依頼が増えています。仕事もありますし、練習もそろそろ再開しなくてはいけないため、正直、あまり時間はありません。それでも、パラリンピックを終えたばかりの今は車いすテニスのことを知ってもらうには一番いいときだと思っていますし、チャンス



Czech Openの表彰式後 八箴（やおさ）選手とだと思っています。今は練習も大事ですが、普及活動も大事なことはないかという思いから、取材依頼をできるだけ引き受けさせてもらっています。

パラリンピック北京大会を機にメディアの対応で変わってきたと感じた部分は、記事がスポーツ面に載るようになったことです。以前は社会面に載ることが多く、日本代表として参加した国別対抗戦の記事でさえも福祉面に載せられたりしていましたから、（徳島新聞のインタビュー記事を見ながら・・・）これだけ大きくスポーツ面に載ることは画期的なことだと思います。

将来的に指導者やサポートする立場になったときについて

車いすテニスをもっと認知させていかななくてはならないと考えるようになったのもここ1、2年くらいのことです。それまでは自分がいかにテニスに打ち込めるか、練習の時間を確保できるかということしか考えていませんでしたので、遠い先のことまで考えていませんでした。

指導者として、テニスにかかわっていけるだけの技術力は今の自分にはありませんが、選手として、スポンサーを探したり、会社との関係をうまく作り上げて、働きながら競技者になる「道」を作っていくということで、後に続く人たちの環境作りのきっかけや、何かに少しでも役に立つことができたらいいなと思っています。テニスに直接関わらなくなっても、自分の体験談や、車いすスポーツの魅力を、講演とか小学校などを訪問して交流する中で伝えて行くということも一つの大切な手段だと思っています。



Taiwan Open Lions Cup での一場面

パラリンピックに出場して・・・

一番よかったのはたくさんの観客の前でプレーできたことです。あれだけのたくさんの人が集まり、1つのことに対して歓声をあげたり感動する、そういう空間を今まで体感したことがありませんでしたので、そのエネルギーのすごさに感動しました。

それから、家族にも初めて生でプレーしている姿を見せることができたのは、すごくうれしかったです。

また、パラリンピック出場を一つの目標として、ランキングを上げるために海外ツアーを回り、いっしょにがんばってきた各国の選手たちと、パラリンピックの舞台で顔を合せたときのうれしさは格別でした。

思い出の試合

毎回毎回何か感じることもあり、どの大会も印象に残っているのですが、私の場合はいいタイミングで大きな出来事や体験をしてきたと思います。

たとえば、はじめて海外遠征に行ったときは、なんとなく、みんなで旅行がてらに初級者クラスに出場したのですが、どういう訳か今まで一度も勝てなかった同じクラブの選手に勝って優勝することができて、非常に励みになりました。どう見ても彼女の方がテニスは上手だったんですが、技術だけじゃなく、メンタル的なもの

も含めてテニスなんだということを知るようになりました。

さらに、その大会で上級者クラスに出場していたトップ選手の試合を見て、技術と意識の高さを肌で感じ、すごく刺激にもなりました。

また、テニスをこれからどれだけ真剣に続けていこうか、と考えている時にアテネパラリンピックがあって、非常に仲良くしていた選手が出場したこともすごく影響を受けました。

先程も言いましたが、自分にとって節目となる大事なときに、すごく印象的なことが起きて、それが自分にプラスの影響を与えてきたと思います。

今思いますと、ここまですごくいい流れでこられたと思っています。でもこれからは、自然の流れにただ乗っていくのではなく、自分で流れを作っていきたいという気持ちに変わってきました。これまで車いすテニスを通じていろいろと体験させてもらいましたので、それを無駄にしないように…。



US Openでの一場面

岡部裕子（おかべゆうこ）
1976年生まれ 徳島県出身
（株）ジャストシステムに勤務しながら、車いすテニス世界トップアスリートとして活躍中。世界ランキングでシングルス最高16位、ダブルス15位。

— 主な成績 —

Japan Open2008	ダブルス準優勝	Japan open2005	ダブルス優勝
Newzealand Open2007	シングルス優勝	Taiwan Lions Cup2005	ダブルス優勝
BNP Paribas French Open2006	ダブルス準優勝	Australian Open2005	ダブルス優勝
Kpm Consult Czech Open2006	ダブルス優勝		
Kobe Open2006	シングルス準優勝		
SYDNEYINTERNATIONAL2006	ダブルス準優勝		
Kanagawa open2005	シングルス準優勝		
	ダブルス優勝		

インタビュー実施日：平成20年11月7日（金）聞き手：黒河、井上